

# 渡航費・輸送費カンパにご協力をお願いします。

渡航期間：08年2月に2週間程度を予定  
渡航予定者：今川夏如 他数名

皆様からいただいた支援金(カレンダーやグッズの売り上げ、サポーターの会費)は渡航費には使いません。これは2002年の当初から決めていたことです。ですが、正直な金額ではありません。現地からの要望により事前に購入していくものもあり、荷物を運ぶだけでも費用がかかります。個人的な負担が大きく、帰国後の継続的な活動をささえるためにも、毎回カンパのお願いをすることにしています。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

■カンパおよび支援金の振込先※1口3,000円 ※通信欄に渡航費カンパとご明記ください。郵便振替00160-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊 ※カンパは次回募集開始まで受け付けます。

## ■今回の渡航の目的

- ①アフガニスタンでの活動を継続し、それを日本のサポーター、および一般の人々に伝えるための情報収集・取材活動。
  - ②2007年版カレンダーの支援金(約150万円見込)を現地に届ける。
  - ③サポーターの会費を現地に届ける。
  - ④2009年版カレンダーの取材。
  - ⑤要請・支援物資等を現地に届ける。
  - ⑥現地関係各機関との関係作り。
  - ⑦同行する日本人技術者による現地スタッフへの技術指導。建設中のスタジオの完成。および、デンマークから届いた機材のチェックとスタッフへの指導。
  - ⑧上記の目的を果たすために必要な経費(人件費を除く)を捻出する。
- ※治安情勢など総合的に判断し、適宜中止、延期、緊急帰国等の措置をとる。

## ■渡航予定者から

今回の渡航は、治安が比較的安定している冬のシーズンを選びました。大きなプログラムが一通り終了し、雪に閉ざされるアフガニスタンで、現地スタッフも少し休息を取ります。その期間に、新しい技術や能力を学ぶ必要があります。私たち日本側には、音楽関係の者が多く、音響機材や編集・録音技術などに長けています。デンマークから機材の支援を取り付けることができたので、その使い方を教えて欲しい。と現地スタッフから前回渡航時に要請されていました。また、日本で民間のラジオ放送局を運営するなど、今後のMMCCの活動に必要な知識をもつ日本人の方も、日程の調整をしてくれています。このMMCCニュースは、私たちの予想以上にたくさんの方々の目に触れ、思わぬところから仲間が増えていっています。またいつか来日公演も行いたい。子どもたちが夢を見続ける限り、私たちも夢を追いかけていきます。なぜなら、夢を持った大人たちの背中を、子どもたちは見ているはずだからです。戦争をしない、笑いを絶やさない大人として、子どもたちの前に立ち続けたいですね。気づけば、きっと子どもたちはどんどん前に進んでいくことでしょうから。

私事としては、長女さららは、11月24日で1歳になります。カブールからは、「さららはいつ来るんだ?」と。さすがにまだ早いです。トモダチを紹介しないわけにはいきませんからね。いつか必ず行きます。私たちの力だけで、この国に安定をもたらすことはできないと思います。だけど、私たちの力は、必ずこの国の安定のために力になれると思っています。少しずつでも良いので、前へ進んでいきながら、またひとり、またひとり、一緒に歩く仲間が増えていくのが楽しみです。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

NPO 法人みんなの夢の音楽隊 代表  
JAPAN-MMCC 代表  
今川 夏如

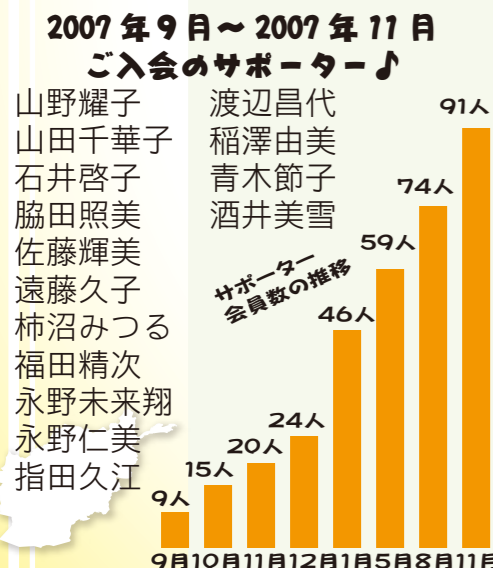
## MMCC サポーターを募集しています!

会費は1口300円/月です。全額がアフガニスタン MMCC に送金され、現地の活動に役立てられます。サポーターには、年4回、現地の様子を伝える「MMCC ニュース」をお届けします。また、カレンダーやポストカードといったサポートグッズのご紹介や、関連イベントのご案内も一緒にお届けいたします。ニュースの発行や、送金手数料、郵送料は「みんなの夢の音楽隊」が負担しています。

## あなたもサポーターになりませんか!?

みんなの夢の音楽隊は、内部活動グループとしての JAPAN-MMCC を継続し、これからもアフガニスタンの子どもたちとの交流や、活動の連携を続けていきます。アフガニスタンの治安状況は悪化の一途をたどり、日本で見聞きすることはどれも残念なニュースばかりです。しかし、子どもたちの役割は、戦争に参加することではありません。戦争をやめさせることは大人たちの役目です。子どもたちは、将来の世界を楽しめるものにするために、今を大切に楽しむことが仕事です。そして、その楽しさを、よりたくさん子どもたちと共有することが、彼らの役割です。そんな子どもたちをサポートすることが、MMCC をはじめ、みんなの夢の音楽隊の役目だと思います。今後とも、みなさまのご支援・ご協力・ご声援! どうぞよろしくお願いいたします。

MMCC ニュースの配布先を紹介してください! このニュースを、会員の方だけでなく広く一般のみなさまに読んでいただき、この活動を支える仲間をひとりでも多く増やしていきたいと考えています。ご親戚や、お友達に紹介したいという場合や、イベントで配布したいという場合でも、お気軽に事務局にお問い合わせください。



## NPO 法人みんなの夢の音楽隊 会員募集中

NPO 法人みんなの夢の音楽隊は、会員の皆様の会費によって運営されています。  
私たちの活動に賛同し、協力して下さるメンバーを募集しています!

- |            |                 |                               |
|------------|-----------------|-------------------------------|
| 正会員        | 年会費 1口 10,000円  | 毎月1回ニュースをお届けします。活動を支えてください!   |
| 賛助会員       | 年会費 1口 3,000円   | 毎月1回ニュースをお届けします。              |
| 団体賛助会員     | 年会費 1口 10,000円  | 共同企画事業を行います。会員割引の適用が受けられます。   |
| MMCC サポーター | 月会費 1口 寄付300円   | 年4回 MMCC ニュースをお届けします。※全額現地送金。 |
| ※メールアドレス   | 1アカウント 3,150円/年 |                               |
- お問い合わせ TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772 info@yumeuta.com  
郵便振替 00160-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊

MMCC ニュースに関する感想・アイデア・ご意見をお寄せください。お待ちしております。



特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊  
〒330-0053 さいたま市浦和区前地 2-11-2  
TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772  
発行人 JAPAN-MMCC 代表: 今川夏如  
年4回発行 (2月5月8月11月)

## Afghanistan Mobile Mini Circus for Children

2007年11月15日 (Vol.4)

あなたが支える子どもから、子どもたちへ“夢”と“笑い”と“教育”を届ける!



## MMCC は今日も 全国を駆けめぐる

MMCC ニュース Vol. 4 をお届けします。2007年は、MMCC にとっても意義のある1年でした。2006年の来日公演の成功は、日本だけでなくアフガニスタンでも MMCC の力を多方面に示す大きな力となりました。これまでの実績により、アフガニスタンで開催される大きなセレモニーに、MMCC は幾度と無く招待され、子どもたちの元気な姿を、アフガニスタンから世界に発信することができました。女性の人権向上を目的とするイベントや、農業生産向上のためのイベント、障がい者の人権向上のためのイベント、地雷撲滅運動。さまざまな機会に MMCC の子どもたちは登場し、それを見る他の子どもたちに大きな夢と感動を届け続けています。特に、今年カブールのバダム・バグで開催された「第一回アフガニスタン農業祭(アグリカルチャーフェア)」では、総勢120人の MMCC のキッズアーティストたちがさまざまな農具を持って登場し、演劇、アクロバットパフォーマンス、120人の大合唱を披露しました。もちろんこれは、このフェスティバルのメインイベントです。各テレビ局が生放送したほか、10万人もの来場者がありました。また、その後開催された国際演劇フェスティバルにも MMCC は出演し、アフガニスタンでたくさんの人々に知られるサーカス団として定着しつつあります。

## 今夏の渡航報告書が完成しました。



2007年7月30日～8月17日までのアフガニスタン渡航費・輸送費カンパにご協力いただきまして、本当にありがとうございました。どのような形で渡航の報告をするべきか考えていたのですが、MMCC ニュースの発行、アフガニスタンチャリティカレンダーの製作など、幅広く現地の情報をお伝えする媒体が増えてきたこともあり、そこでは伝えきれない部分を重点的にお伝えしていきたいと思い、この28枚のミニアルバムをもって、渡航報告にかえさせていただきたいと思っております。

アフガニスタンでは基本的に、現地の人と同じ生活をしますので、日本の暮らしに慣れてしまっている私には、かなりしんどい毎日です。そんななか、久しぶりの夏場の渡航でしたので、子どもたちのことはもちろんですが、メロンやスイカ、フルーツだけが心の支えでした。この写真は、その気持ちが良く出ているらしいので、まずはこの1枚でご挨拶。



バーミヤンでの私の朝食。ナンにバナナクリーム(果実0%)とお茶。このバナナクリームはすごい。バナナ臭が一日中身体から消えなかった。バザールでチーズとジャムを買いに行こうと決心するには十分だった。4人で食べたが、そのうち2人がおなかを壊した。



2008年版カレンダーに使用した写真の別ショット。近所の子どもや弟たちもまぎって遊んでいる。だが、こうして男の子と女の子が一緒に遊んでいる写真は、カレンダーには使うことができない。見る人が見たら、MMCC は、アフガンの伝統を破壊していると言われてしまうからだ。そんな伝統など無い。と、言う人は言うのだが・・・。



実はこれもカレンダーの別ショット。街道沿いのレストランで、ナンがないのでできたバター。しかし、このバターはおどろくほど新鮮。ほんの数時間前にできあがったそう。食事はできなかったが、このバターを袋に詰めて購入し持って帰ることにした。翌朝あのバターはどうした?と聞くと、全部子どもたちが食べちゃったよ。私にはバナナクリーム。  
※報告書より4枚をご紹介します 他24枚



# カンダハールプロジェクト



▲定番になった平和教育の演劇

カンダハール周辺でのプログラムは、比較的治安の安定している時期を見計らって短期間で行われます。現在、治安情勢などの影響で継続的な活動が困難な地域では、モバイルアーティストたちによるワークショップや演劇公演に力を入れています。

演劇を観る子どもたちは、どこの子どもたちも本当に大笑い。笑いながら大切なことを少しずつ学習していきます。来日公演後、スタッフは観衆の子



▲呼び掛けに応える子どもたち

## なぜ人形劇が重要なのか。

MMCC で長く指導者を務めているシェハーンがインドの人形劇の専門組織で研修を終え、人形劇作りのワークショップが大きく向上しました。アフガニスタンでは、子どもといえど、女の子が人前で歌を歌ったり踊りを踊ったりすることを、良くないことと考える人がたくさんいます。特に地方に行けば行くほどその傾向は強く、女兒が学校に通うことにも抵抗があったりします。そのような地域で、女の子へのワークショップで用いられるのが人形劇作りです。人形作り、舞台作り、ス

### MMCC ってなに？初めて聞いたよ？なにをやってるの？という方へ♪

日本のみなさん！初めまして！アフガニスタン MMCC です。わたしたちはアフガニスタンで設立された NGO なので、海外に母体を持っていません。しかし、最初からのメンバーの中に、デンマーク人と日本人がいました。その後不思議なご縁で、日本にたくさんのお友達ができました♪このニュースは、そんな日本にいるお友達が私たちの活動を紹介するために創ってくれたものです。せっかくなので読んでいただい

どもたちをいかにステージに巻き込んでいくか、といった参加型のステージ作りに入れています。



▲サーカス小屋のようなテントの中



▲まずは準備体操から。バーミヤン同様、手をつないで離さない体操もやる。



▲できあがった手作り人形

リー作り、人形を操る役、声の担当など、ひとりひとりが役割を担い、ひとつの大きな舞台を創りあげる過程を学ぶことは、多文化共生のアフガニスタンで非常に重要なテーマです。そして、なにより当事者の女の子が舞台上で姿を見せることが無い、比較的容易に受け入れられるワークショップなので



▲できあがった手作り人形

るので、少しでも私たちの活動を知ってもらい、もし、気に入ってくれたら私たちの活動を支えるサポーターになってくれないか？ニュースを読んでわからないこととか、もっと知りたいことがあったら、日本にいるお友だちなんでも聞いてください。遠いところにいるけど、私たちはいつも一緒に活動しています！！アフガニスタンでは大きく次の4つのプログラムを行っています♪



▲ワークショップの一幕

ワークショップでは、教育的な内容のプログラムとして、地雷回避教育、人権教育、平和教育を中心に行います。ひとりではできないことをみんなで協力し合って創っていく過程で、助け合うことの大切さを学びます。テロや散発的な戦闘が起きる地域に暮らす子どもたちは、常に不安を抱えています。そのことは、子どもたちの表情から容易にうかがい知ることができてしまうほどです。こういう地域にこそ、私たちのプログラムは必要なのです。



▲ワークショップの一幕

す。逆に言えば、人形劇以外のプログラムはなかなか実施できないこともあり、人形劇を通じて、どれだけたくさんのことを子どもたちに伝えられるかが重要になってくるのです。そのため、人形劇作りを指導するスタッフの能力向上は非常に重要なプログラムなのです。



▲いよいよ本番。舞台裏の様子。

### 移動サーカス (モバイルサーカス)

アフガニスタンの地方の村々を回り、教育的な内容のパフォーマンスを行い、字が読めない子どもたちにも、平和教育、衛生教育、地雷回避教育といった生活に必要な知識を伝えています。※写真は「手を洗おう！」



# ハンディキャッププログラム



フランス政府系の援助によって実施されているハンディキャッププログラムでは、200人以上の障がいをもつ子どもたちが、MMCC のスタッフと、若いトレーナー (アリシナやラハマトを含む) の指導の下、彼ら自身のパフォーマンスを完成させることができました。その過程で、子どもたちはあたりまえのようにカルチャーセンターで過



▲歌・ダンス・ジャグリング・アクロバット・演劇のプログラムの様子▼



## MMCC 体育館完成間近！

MMCC のカルチャーセンターで建設が進められていた体育館が、いよいよ完成間近となりました。世界中のサポーターから寄せられた資金と、ボランティアのアフガニスタン人建築家によって、コンクリート造りの丈夫な建物ができあがりました。すでに体育館での活動は始まっており、毎年のように増え続ける MMCC の子どもたちはこの場所で、

### 子ども・カルチャーセンター

15の教室を持ち、歌や絵画、サーカス、演劇、アクロバット、格闘技、英語、コーラン、手芸、工芸、文学などのクラスがある。それぞれのクラスで様々な知識や技を身につけ、自身の可能性をのばせるような様々な工夫がなされています。広い中庭では子ども達が自由に遊び回り、叩いたりどなったりする大人はいません。自由な空間は子ども達の創造性を高め、将来の可能性を広げていきます。

ごし、他の子どもたちも当たり前のように彼らを受け入れ、共に励み合ってトレーニングを重ねていきました。この成果は、障がいをもつすべての人々に、新しいライフスタイルを提案し、創造的な暮らしを夢見ることが可



▲やりたいことがたくさんできた！

能にします。プログラムの後で描いた子どもの絵は、まさにそれを象徴するものでした。このプログラムは、アフガニスタン政府の障がい者への差別・偏見を軽減する人権教育プログラムの一部としてテレビでも放映されました。また、このプログラムの成功を受け、このハンディキャッププログラムを実践できる指導者の養成をはじめることになりました。地雷による被害が後を絶たないアフガニスタンでは、このプログラムを全国に広げることが特に必要であり、また、MMCC はモバイルサーカスを通じてそれを実行することができるのです。今後、この移動サーカス団の力はますます必要とされることでしょう。



▲外壁塗装が完了した体育館

アクロバットや、精神と肉体を鍛えるための格闘技、基礎体力向上のためのトレーニングを日々行っています。見学に来る子どもたちはそんな一生懸命なお兄さんたちの姿を見て、いつしか MMCC に来る日を夢見ています。今までは天気の良い日や、冬場の降雪シーズンは、広いスペースを必要とするアクロバットの練習などはまったくできませんでした。これからは、1年中、

# 見えない未来 創り出す未来

アフガニスタンの治安状況はいつこうに回復の兆しが見えず、各国の NGO も活動の規模を縮小している例が目立ちます。まだ明るい未来が見えるとは言えない状況ですが、MMCC は活動の規模を広げています。最大の強みは、アフガニスタン人の大人たちが、アフガニスタンの子どもたちを大切に思う気持ちをベースにしていること。愛は強いのです。



▲有刺鉄線の壁と子どもたちの描いた絵



▲あふれんばかりのカルチャーセンター

子どもたちが夢に向かって努力し続けることができるようになりました。本格的な冬を迎える1月に向けて、MMCC では、コンクリートの床にマットレスを敷き詰めるための寄付を募っています。MMCC サポーターの会費の一部も、このプロジェクトに使わせていただいております。みなさまの変わらぬご支援、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

▼体育館の中の様子



### ワークショップ 実践！実感！実現！

実際に子どもたちの手で何かを創り上げる作業。人形劇や組体操など、かならずひとりではできない、みんなで協力し、助け合わなければならないことをやってみる。社会の中での役割を実感し、異なる部族同士でも助け合うことの大切さを学んでいます。

### ティーチャートレーニング (教員養成)

長い戦争で教育インフラの85%が破壊されました。現在も、専門的な技術をもたず教科書をただ読んでいるだけの教師も多いのです。子どもを叩いたり、罵ったりすることも多く、教師の質が大きな問題になっています。子どもたちの興味を引き出したりオリジナルの教材作りは、MMCC の最も得意とする分野です。各地の教育委員会などで行っています。

